



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

聖霊の内住

ローマ書8章1~11節

日本基督教団
牧師 安藤 脩

キリスト者とそうでない人の違いは何でしょうか。「優しく愛がある。清く道徳的である」でしょうか？これは結果として見える状態です。そのような人が多いか、少ないかの率の問題

であって、違いではありません。キリスト者よりも立派な人はたくさんいます。

でもキリスト者が他と違い、真に幸いなのはなぜでしょう。「今や、キリスト・イエスにある者は、罪に定められることがない」(1節)という聖書の約束です。キリスト者がキリスト者であり得る原因は、自分の功績ではなく、ただイエス・キリストの恵みによるのです。この1節の聖句の意味は、「キリスト・イエスの霊が内住している者は、罪の責任を問われることがない」ということです。大変無責任に聞こえるでしょうが、「責任はわたしが取る。その代わりに、あなたはわたしにしっかりと結ばれていなさい」と主キリストは言われるのです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。」(ヨハネ15章5節)キリスト者とは、キリストにより罪を赦され、キリストの心(新しい命)を与えられ、結ばれていることにより、それを生きる力も流れ込んでくる人のことです。

「肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は、霊のことを思うからである」(5節)とされている

る「肉」とは、人間性のまったき弱さのことです。誘惑に負け傷つきやすい性質。罪に機会を与えている面。この世の目に見える物に執着している様。朽ち滅びゆく物に人間の心を委ねてはならないのです。そうではなく「霊」=人間以上のもの、神的な力。生活の中に激しく働く神の霊の力。パウロは自分の中に今や、自分の力ではない力が存在していると言うのです。そしてその力は誘惑に敗北してしまうような存在ではなく、私たちに勝利の生活に入れてくれる力なのです。

あなたの心は何を大事なものと考えていますか？何を求めていますか？イエス様は「あなたの宝のある所には、心もあるからである」(マタイ6章21節)と言われました。朽ち果てていくこの世の物ではなく、永遠に消えることのないキリストの愛に心を向け、受け入れる人は幸いです。なぜなら、その人の内には神の御霊が宿っているからです。「神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない」(ローマ8章9節)と記されているとおりです。

何と感謝なことでしょう。内住の聖霊は私たちがキリストの姿に似た者へと成長させてくださいます。それだけでなく、本当の生きがいをも与えてくださいます。「イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊……あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださる」(11節)と約束されています。

アシュラム連盟のホームページのQRコードは右記の通りです。



霊想 霊の導き



日本キリスト合同 東成教会

牧師 谷口 和

今回、霊想を書く機会が与えられましたことを感謝いたします。

霊の導きについて考えますときに、思い出される聖書箇所があります。使徒行

伝の記事の中に「伝道の困難さをどのように受け止めるのか」について、私たちに問いかける質問ともいべき聖書記事が書かれています。それは使徒行伝 16：7 の「イエスの御霊がこれを許さなかった」という言葉です。

伝道の困難さを経験するとき、多くの場合悪魔の力とか、この世の力とか、神の業をさまたげるもの等の言葉のほうが、頻繁に使われるように思います。その姿は、使徒行伝の中の 4：25～26、これは詩編 2 編の引用ですが、「あなたは、わたしたちの先祖、あなたの僕ダビデの口をとおして、聖霊によって、こう仰せになりました。『なぜ、異邦人らは、騒ぎ立ち、もろもろの民は、むなしいことを図り、地上の王たちは、立ちかまえ、支配者たちは、党を組んで、主とそのキリストとに逆らったのか』」に似ているかもしれません。

このように、同じ使徒行伝でも、伝道の困難さを

- (1) 弟子たちのように預言の実現として受け取る
- (2)パウロのように困難さのなかにも主の導きがあるとする

この二種類の立場が登場するのです。

私の個人的な考えとしましては、弟子たちが受け取ったようにではなく、パウロのように、主の導きとして受け取る立場を取りたいと思います。なぜなら、次のように考えるからです。使徒たちと、パウロの間には大きな違いがありますが、辛辣な意見ということになってしましますが、使徒たちはゲッセマネの園で祈りよりも居眠りを愛し、イエス様を見捨て逃げた人たち

です。一方パウロは迫害者から主の器へと変えられた人です。

パウロはもともと福音宣教の妨げを行う人でした。パウロが主と出会ったのは、シリアのダマスカスにある教会を迫害に行く道中です。

パウロが、主と出会ったとき、彼はどうなったのでしょうか。

彼は主によって造りかえられました。福音宣教者となったパウロは、生まれたときから持っていたローマの市民権を用いて、伝道旅行をしました。教会を建て上げました。エルサレムの教会へ献金を届け、支援しました。彼の書いた手紙は新約聖書の大半を占めています。

キリスト教は経典宗教（敬典宗教）です。いわゆる「卵が先か鶏が先か」という視点でいうなら、聖書が先です。

救いを成就したのは主イエス様です。主イエス様によって旧約聖書が成就し完成しました。

一方、旧新約聖書を経典とするキリスト教という宗教に目を転じてみれば、新約聖書の書簡の大半を書いたパウロがキリスト教という宗教の成り立ちに、多大な貢献をしたということになるのです。

このパウロですが、彼が伝道の困難さのなかで「イエスの御霊がこれを許さなかった」という表現を用いています。

ここには、困難の中にも主の導きがあるとする立場があるように思えます。ではなぜパウロは、このような立場を採ることができたのでしょうか。

そこに、次のような理由があると思います。

- (1) 彼の過去は迫害者であったこと
- (2) 迫害者から福音宣教者に変えられた自分の経験

主イエス・キリストの十字架での死と復活によってもたらされた救いには、弱い人を強い人にし、迫害者を福音宣教者に変える力があり、困難の中にも主の導きがあるという、パウロだからこそ持つことができた視点があるのだと思います。

第 40 回岡村アシュラム

日本基督教団 横浜岡村教会

牧師 杉本 和生

コロナの影響で2年中止になっていた岡村アシュラムを縮小形で7月15日(土)~16日(日)、横浜岡村教会で行いました。

15日午後2時より開会礼拝、オリエンテーション、开心の時、祈りの細胞。その後、ファミリーアワーを5時まで行いました。

土曜日の出席者は13名、姉妹教会の清水ヶ丘教会の青年が1人出席しました。写真のように、土曜日だけの参加者のために「イエスは主なり」と三本指を立てて、アシュラムの挨拶をしました。



16日(日)は8時からの「静聴の時」はローマ人への手紙8章から、そして「祈りの細胞」の時間。10時半からの主日礼拝の「福音の時」。昼食は数年ぶりの炊き込みご飯を頂きました。「充満の時」の後、ヤコブの手紙1章をみなで黙想し「静聴の時」。与えられたみ言葉と恵みの分かち合いの時間をもちました。二日目の最後まで残ったのは12名でした。

アシュラムが終わって、数人から頂いた感想は「自分の必要な願いばかりではなく、誰かや何かの祝福を願って祈る必要があるということを教えられたひとときでした。継続は力なりで、一年かけて日々たゆまず、皆様のために祈らせていただきたいです。」「普段、挨拶だけの方と二ードを通して話して恵まれる時となりました。」「普段の生活から離れ、静かに神様のみ言葉に集中して静聴することで、自分のすべての事を主に委ねること、御声を聞く体験をさせていただきました。心に御言葉が染み込み、胸が熱くなるのを感じました。」「祈ってもらえてうれしい。」「初めてだけ良かった。」「神に近づきなさい、とお言葉を頂いた。」などでした。

第 46 回西川口教会アシュラム

日本基督教団 西川口教会

牧師 金田佐久子

2023年7月29日(土)~30日(日)、第46回西川口教会アシュラムが開催されました。主題は「教会を造り上げる愛の言葉を」。助言者は、島隆三先生(東京聖書学校神学教師)。聖書箇所は、コリントの信徒への手紙I第12章から第14章でした。今年度の教会の主題は「聖霊に導かれて前進する教会」。主日礼拝では使徒言行録を説教し、聖霊に導かれる初代教会の出来事を見ています。教会アシュラムでは、聖霊の賜物が説かれている御言葉を静聴したいという願いが与えられました。

今年は猛暑となり、教会アシュラム当日も暑さの厳しい中でしたが、皆さん励んで来られ、部分参加も含めて参加者は23人、4つのファミリーを作りました。久しぶりや初参加の方も数人おられて、喜ばしいことでした。

私の静聴の分かち合いです。コリントI第12章2節「誘われるままに、ものの言えない偶像のもとに連れて行かれた・・・」から、偶像に流されていく人間の姿と、何も語るできない偶像の空しさをつくづく感じました。続く3節の御言葉は対照的で「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」。まことの神とお出会いしたならば、だれもが、心から主体的な信仰の告白をすることになる。うれしく聴きました。参加者それぞれに御言葉から主の語りかけを聴けたと思います。コロナも完全には終息していないので、プログラムは短くしました。礼拝後、ファミリーごとに写真撮影をしました。



交証 ミニミアシュラムの恵み

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会
信徒 吉田 章代



2020 年初めからの新型コロナウィルスの流行に伴って、池の上教会でもクラスターを起こさないためにプログラムや賛美の変更が余儀なくされ、様々な活動が自粛方向に変わりました。長引くに伴い、教会員同士の交わりも少なくなり、何となく寂しい、物足りなさが感じられるようになりました。

2022 年秋、コロナ感染も落ち着き、少しずつ日常が戻りつつあった頃、前年度グレース会(婦人会)の役員の方々が9~11月の3か月間、月に一度、第3日曜日の午後にはクリスマスカード・オーナメント作りを計画して下さい、たくさんの姉妹方が参加され、久しぶりの良きお交わりの時となりました。昼食は個々に黙食であったと思います。

今年度グレース会会長をお引き受けした私は「前年度実施された、月に一度の会を継続させて下さい。神様に喜ばれる会を計画して下さい」と祈り始めました。何人かの教会員に伺ってみると「賛美をしたい」、「『聴くドラマ聖書』を皆で聞くのはとても良いと思います」との声が返ってきました。

グレース会役員会で検討してもなかなか良い案がまとまらない時に、牧師夫人から「聖書を読んで、少人数で恵みを分かち合うミニミアシュラムというのはどうですか」との提案を頂きました。「それは素晴らしいアイデアです」ということとなり、会の流れもすぐに決まりました。①賛美をする ②一章を「聴くドラマ聖書」で聞く ③通読の友(千代崎備道著)を司会者が読む ④それぞれが黙読して、み言葉を頂く ⑤4~5 人ずつのグループに分かれて頂いたみ言葉と恵みを分かち合う ⑥グループの中で祈り合う ⑦聖書箇所は詩篇、所要時間は 45 分と決まりました。

近くに座った方々とグループを作るので、いろいろな方との出会いが生まれました。若い方々の参加も得られました。遠方のため日曜礼拝はリモート参加しておられた方も、第3日曜日をめざして教会においでになるようになりました。毎回 20 名前後の

方々が参加して下さいます。神様のお導きに感謝いたします。

城北アシュラムの紹介 連盟事務局 貴村かたる

城北アシュラムは、東京地区4教会(池の上・新宿西・更生・天門)で構成し、毎年各教会持ち回りで開催している。

開催にあたっての経緯は、日本クリスチャン・アシュラム連盟 HP で見ることができる。

第一回城北アシュラムは 1973 年 1 月 16 日~17 日に池の上キリスト教会を会場として開催。山根師(池の上)、岡田師(新宿西)、横山師(当時・西川口)の諸師の篤い祈りで開かれた。

この年より毎年欠かさずことなく現在に至るまで開催されており、開催時期は第6回から毎年2月11日(祝日)に「一日アシュラム」として現在まで継続されている。

現在、中心的助言者でもある横山義孝師は御年 96 歳、先生の担当は満時の時。霊感あふれる導きで皆が円になって分かち合いの時を持ち、最後に3本指を立てて「イエスは主なり」とアシュラムの挨拶を三唱し、出発の挨拶を交わすアシュラムの醍醐味は毎回変わることがない。

昨年と一昨年だけはコロナ緊急事態宣言下にあつてコロナ感染防止の観点から、池の上教会、新宿西教会、更生教会の3会場にそれぞれ分散して開催。多くの外部の方々のご支援をいただきつつ、インターネットによるリモートライブ配信システムで3会場をつなぎ、52回、53回の城北アシュラムを成し遂げ、本年は3年ぶりに対面でのアシュラム開催ができた。次回開催にあたり、年6回の準備祈禱会を各教会持ち回りで開催し、プログラムを決定。コロナ禍のこの3年間、準備祈禱会はオンライン ZOOM 会議で作業を進めてきた。

編集後記

新型コロナ「定点把握」データによりますと、一医療機関あたりの平均患者数は増加傾向にあります。コロナについてテレビ、新聞等で報道されることはほとんどありませんが、まだまだ慎重に行動しなければなりません。

一方で、ウクライナ侵攻は終息のきざしもなく、地球温暖化を始めとして暗いニュースが毎日報道されます。今こそ、私たちキリスト者の執り成しの祈りが必要とされています。

聖徒ご逝去のお知らせ



脇田眞一師 大手家電メーカーを定年まで務め、その後献身し、最後は日基東大阪教会牧師としてお働きになられました。そして連盟理事、関西アシュラム書記、多くの伝道のお働きにご奉仕されました。8月8日、88歳のご生涯を終え、主のもとにお帰りになりました。

榎本和子師 アシュラムセンター主宰者の榎本保郎師亡きあと、40年以上にわたって主事の働きを務められました。長男・恵師(現主幹牧師)が責任を持たれるまで多くのご苦勞の中、み言葉が和子師を支えて来られました。自叙伝『ちいろばの女房』として紹介されています。8月15日、97歳のご生涯を閉じられました。



アシュラム予告

- 第56回関西アシュラム
日時・10月9日(月祝)
場所・大阪クリスチャンセンター
助言者・岡山教彦師
函館栄光キリスト教会ミニミアシュラム
日時・10月9日(月祝)
- 助言者・島隆三師
- 第55回城北アシュラム
日時・2月12日(月祝)
- その他、開催予定のアシュラムを事務局までお知らせください